

ポストコロナ時代における沖縄観光の二次交通に関する調査 ～レンタカーを利用しない観光客のニーズから考える移動手段～

付属資料

2023年2月20日

沖縄振興開発金融公庫 調査部



(1) 調査背景（現状・課題と調査目的）

背景・目的

- ✓ 中長期的な旅行市場の変化を踏まえると、沖縄を訪れる観光客の地域内での交通手段は、今後も一定程度のレンタカー需要は残る一方で、**これまで以上に「レンタカーを使わない旅行者」が増加し、二次交通の位置づけが高まると推察**される。
- ✓ これまでの沖縄観光は、レンタカーや大型観光バスによる移動を前提としてきたが、「レンタカーを運転できない者が、来訪を諦めている」という機会損失も想定されることから、**二次交通の整備により、取りこぼしていた需要獲得も期待**される。
- ✓ 交通事業者を取り巻く環境として、**バス、タクシー事業者では、運転手の高齢化や人手不足、利用客数の減少等から、今後の事業継続への懸念**がある。
- ✓ 県内では近年、行政を主体として、観光客の公共交通利用の促進を目的とした二次交通の利便性向上に向けた取組やレンタカーを利用しない旅の情報提供等、各種事業を進めているが、「路線バス降車後の観光スポットへの移動」や「観光スポット間の円滑な移動」といった**地域交通のいわゆる「ラストワンマイル」においても、利用者目線に立った利便性や機動性を向上させる取り組みが必要**。
- ✓ 加えて、「路線バスの利用が困難な旅行者」が周遊する「バリアフリーな移動手段」等、“多様な二次交通サービスの提供”がこれまで以上に求められる。
- ✓ そこで、本調査では、「ポストコロナ時代に車（レンタカー）を利用しない観光客が、沖縄観光を楽しむための移動手段」について、旅行者側のニーズや事業者の動向等をもとに検討し、**今後の沖縄観光施策への一助に資すること及び観光関連事業者や交通事業者への情報発信・情報提供を行う**ことを目的とする。

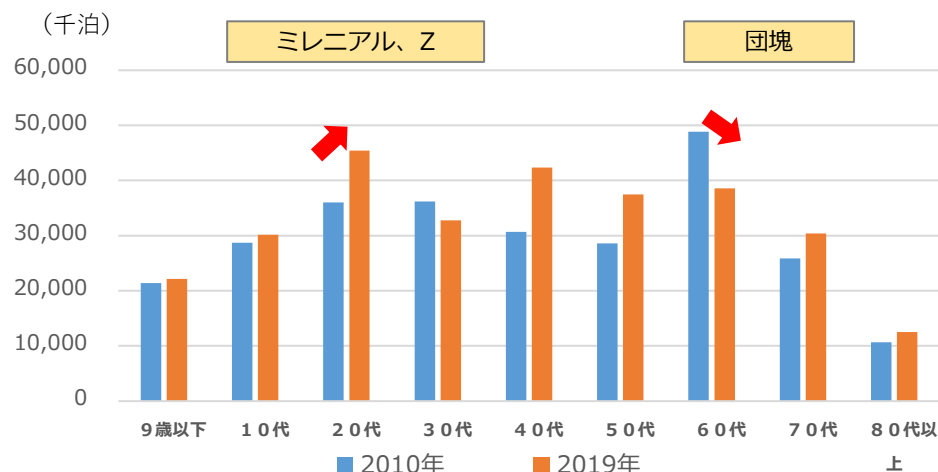
参考データ：旅行市場の現状

【国内市場の世代交代】

- これまでの国内旅行市場は、人口ボリュームの大きい団塊世代に支えられてきたが、宿泊観光旅行者の年代別動向を2010年と2019年で比較すると、団塊世代（70代）は、10年前（当時60代）と比べて延べ泊数が大幅に減少している一方、2019年の延べ泊数が最も多い年代は20代となっている。
- このように**市場の主役となる世代（旅行牽引世代）はミレニアル世代、Z世代にシフトしつつある。**

国内宿泊旅行（観光・レクリエーション）の延べ泊数の年代別変化

出典：観光庁「旅行・観光消費動向調査」

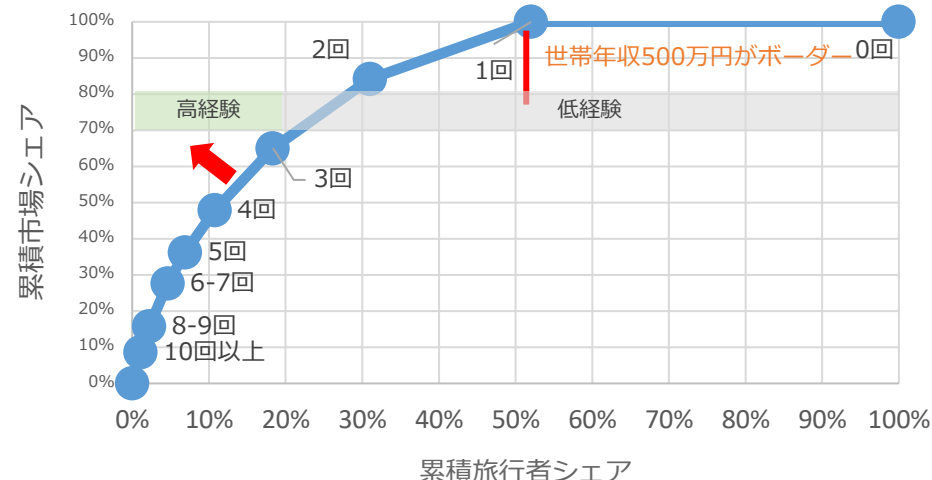


【「旅行する人」と「しない人」の格差拡大】

- 国内旅行市場はパレート分布しており、旅行者の上位2割（年間3回以上旅行する層）が旅行市場の8割を占める。また、世帯年収500万円が年1回の旅行のボーダーライン。
- 旅行は経験財とも言われており、経験の積み重ねが次なる旅行を促進するため、今後、**所得格差が進行する場合、それに応じて旅行実施の格差も拡大する可能性**がある。

年間旅行回数別・市場専有状況

出典：観光庁「旅行・観光消費動向調査」



参考データ：沖縄観光の現状と課題

①20代旅行者の伸び悩みと市場の高齢化による市場の縮退

- コロナ禍前、沖縄を訪れる入域観光客数は長期にわたり増加基調で推移していた。近年はインバウンドの伸びが顕著ではあるが、平成24年度から平成30年度にかけては県外客数自体も増加が続いてきた。しかし、年代別に見ると40代以上の増加が目立つのに対し20代と30代は横ばいで推移している。国内観光宿泊旅行市場全体で見ると20代の旅行が活発化しているが、こと沖縄においては20代は伸び悩んでいる。
- このまま30代以下の旅行者数が増加しなければ市場の高齢化が進み、やがて市場は縮退することが懸念される。

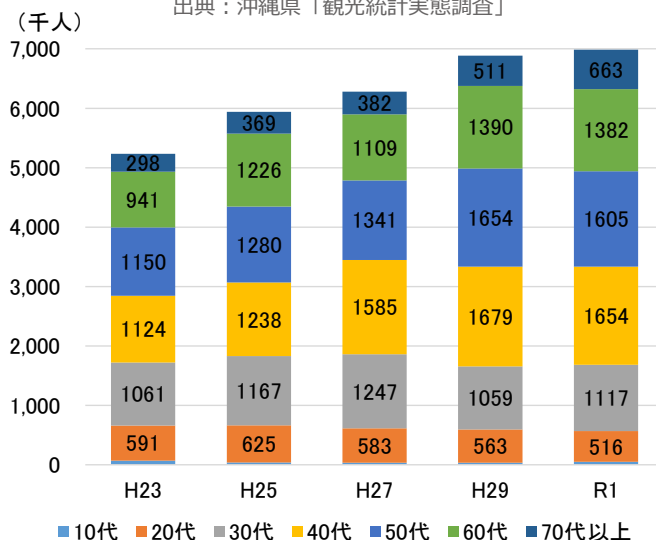
②新規旅行者の伸び悩み

- 訪沖観光客数のうちリピーター比率は8割超に上る。リピーターは市場を安定させる一方で、新規旅行者が増えなければ市場は縮小する。下図（中央）の訪沖旅行者数の推移を訪沖回数別に見ると、訪沖2回以下の割合は減少傾向にあり、ビギナーが多い20代で見ても同様の傾向にある（右下図）。先に示したとおり20代の訪沖旅行者数は横ばいであることから、訪沖2回以下の20代旅行者は年々減少している。

→つまり、20代の国内観光宿泊旅行者数は多いのにも関わらず、沖縄においては20代の旅行者を十分に誘客できていない

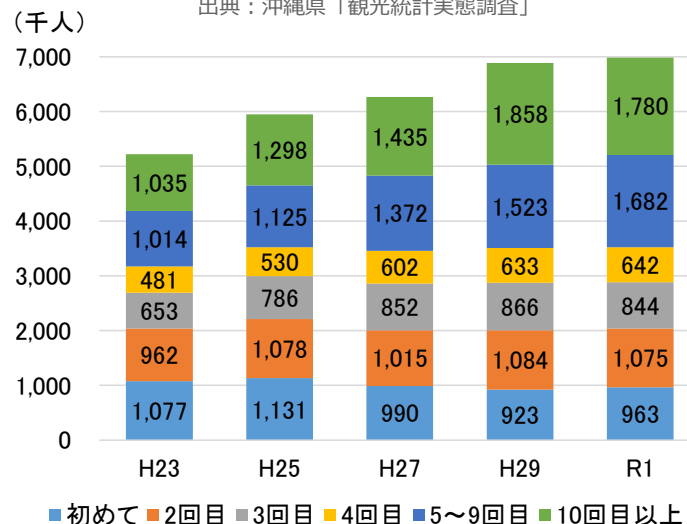
入域観光客数（県外客数）の推移（年代別）

出典：沖縄県「観光統計実態調査」



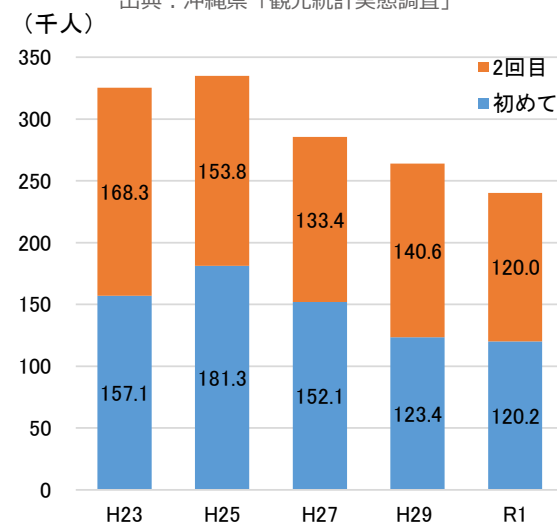
訪沖旅行者数推移（過去訪沖回数別）

出典：沖縄県「観光統計実態調査」



20代訪沖旅行者の過去訪沖回数（1-2回目）の推移

出典：沖縄県「観光統計実態調査」



参考データ：沖縄の二次交通の現状と課題

需要面

20代の沖縄旅行でのレンタカー利用率は減少していない（運転ができない20代は沖縄を訪問しない可能性あり）

20代の沖縄旅行で利用した交通手段

	H23	H25	H27	H29	R1
レンタカー	76.4	74.1	75.6	73.2	75.1
タクシー	27.4	22.8	32.2	-	-
貸切タクシー	-	-	-	1.9	2.8
一般タクシー	-	-	-	20.5	22.4
モノレール	21.1	25.2	28.8	25.6	28.7
路線バス	5.2	11.8	16.1	12.5	15.1
航空機（県内）	15.6	18.8	16.5	16.9	14.5
船（県内）	13.7	10.0	17.9	11.2	14.8
観光バス	11.3	9.9	8.9	10.1	6.5
自転車	7.1	4.1	9.2	6.7	6.3
自家用車・法人車	3.3	3.6	3.2	5.1	4.1
その他	2.0	2.1	5.2	3.7	2.7

出典：沖縄県「観光統計実態調査」

夏期ピーク期は空港到着からレンタカーを借り受けるまでの所要時間が最大2時間であり、不満の要因に

夏季ピーク期的那覇空港前の中之島の様子



出典：内閣府沖縄総合事務局

平成29年度那覇空港の接車帯における混雑緩和検討調査業務

供給面

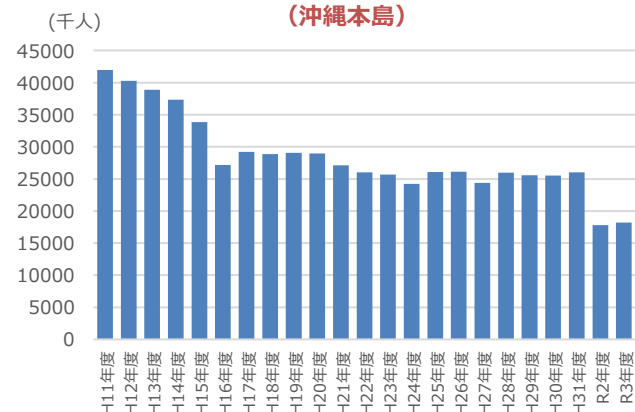
公共交通、タクシー産業の衰退

- 沖縄県は自動車依存型の社会構造となっており、それに伴い沖縄本島のバス輸送人員は、昭和60年度（約7,720万人）とコロナ禍前の平成31年度（約2,600万人）を比較すると約7割減少している。輸送人員の減少はバス会社の経営悪化を招くことになり、悪循環の構造となっている
- また、タクシー・ハイヤーの実働車両数も年々減少が続いており、それにともない輸送人員も減少傾向にある
- このように公共交通やタクシーが衰退することで、観光客にとってはレンタカー以外の選択肢を取ることが難しい状況にあると言える。また、高齢化が進む中で交通弱者をはじめとした人の利便性が失われることから、公共交通の維持は喫緊の課題と言える

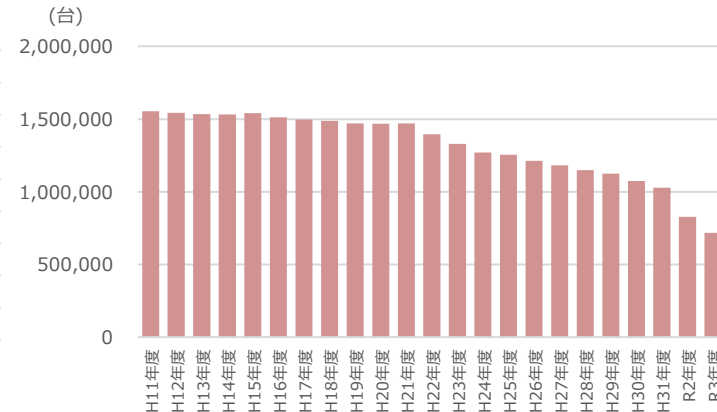
担い手不足

- 平成27年度観光客を対象としたタクシー利用促進に関する調査業務（沖縄総合事務局）によると、タクシー運転手の高齢化が進んでいる上に、低賃金やキャリアパスが見えないことなどから若手の運転手のなり手が少ないという課題が指摘されている

乗合旅客自動車運送事業の年間輸送人員の推移（沖縄本島）



タクシー・ハイヤー実働車両数（沖縄本島）

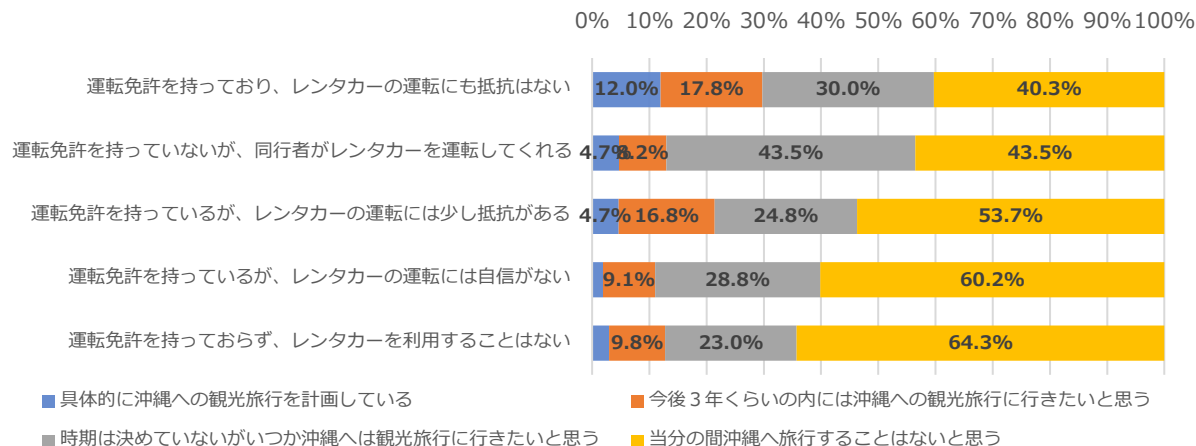


出典：沖縄総合事務局「運輸要覧」

参考データ：沖縄の二次交通の現状と課題

運転免許保有・レンタカー利用意向別の沖縄への観光旅行での来訪意向

- 沖縄への観光旅行での来訪意向を、運転免許保有・レンタカー利用意向別にみると、「**レンタカーへの運転に抵抗がない**」もしくは「**同行者が運転してくれる**」場合には来訪意向が高く、「**レンタカーの運転に自信がない**」もしくは「**免許を持っていない**」場合には低い傾向がみられた。



沖縄旅行をしていない理由

- どの世代も、「**移動時間が長い**」「**交通費が高い**」を選択した割合が高く、約4～5割程である。移動時間の長さに関しては、特にZ世代での選択率が高い。
- 「**沖縄県内の交通が不便**」「**レンタカー利用に抵抗がある・運転が苦手**」の選択率は、40歳以上に比べ、旅行牽引世代で高い。旅行牽引世代にとっては、沖縄への移動時間や交通費だけでなく県内での交通も、沖縄旅行をしていない理由に一定程度なり得ると考えられる。

	Z世代 (n=276)	ミレニアル世代 (n=488)	(小計) 旅行牽引世代 (n=764)	40歳以上 (n=574)	合計 (n=1338)
沖縄県までの移動時間が長い	50.0	47.1	48.2	39.9	44.6
沖縄県までの交通費が高い	46.0	43.9	44.6	42.5	43.7
他にいきたい観光地がある	13.8	15.4	14.8	17.8	16.1
沖縄県内の交通が不便	14.5	13.5	13.9	8.5	11.6
仕事などで休暇が取れない	14.9	13.3	13.9	13.8	13.8
台風などが心配だから	9.4	11.3	10.6	9.9	10.3
宿泊料金が高いので	9.8	11.1	10.6	12.2	11.3
レンタカー利用に抵抗がある・運転が苦手	4.7	4.9	4.8	2.1	3.7
行きたい時期に予約がとりづらい	5.1	4.1	4.5	6.4	5.3
家庭の用事や事情で家をあけられない	2.5	2.0	2.2	3.8	2.9
興味のある観光はひととおり行った	1.8	1.6	1.7	4.0	2.7
海外旅行の方が割安だから	1.4	1.8	1.7	3.7	2.5
合計	225.0	219.1	221.2	209.9	216.4

出典：沖縄振興開発金融公庫「ポストコロナ時代における沖縄観光のあり方に関する調査～これからの“旅行牽引世代”の意向を踏まえた観光（観光地）とは～」

(2) ポストコロナ時代における沖縄観光の二次交通に関する調査

調査の全体像

- 「需要側(旅行者)のニーズ」と「供給側(事業者)の動向」の視点をもとに、以下の調査を実施

需要側(旅行者) のニーズ

① 沖縄の公共交通の観光・旅行における旅行者側のニーズ把握(旅行者インタビュー)

- 公共交通等で沖縄旅行を実施した経験のある方へのインタビュー調査
- 個人ブログ等で公共交通による沖縄旅行を発信している3名の旅行者にアプローチし、インタビューを打診



② 旅行者の地方観光地での移動手段に関する調査(WEBアンケート)

- 旅行者の地方観光地への旅行における、公共交通等による域内移動のニーズや傾向について把握するWEBアンケート
- 1,100サンプル



供給側(事業者) の動向

③ 観光地間の移動サービスにおける可能性調査(事業者ヒアリング)

- 「路線バス降車後の観光スポットへの移動」や「観光スポット間の円滑な移動」といった地域交通のいわゆる「ラストワンマイル(=最終目的地までのワンマイル程度の区間)」を提供する事業者へヒアリング
- 県内3事業者、県外1事業者



① 沖縄の公共交通の観光・旅行における旅行者側のニーズ把握 (旅行者インタビュー)

- 公共交通等で沖縄旅行を実施した経験のある者に、インタビュー調査を実施

▼ 調査概要

項目	概要
調査対象	- 直近5年以内に公共交通等で沖縄旅行を実施した経験者3名 ①20代女性・恋人との旅行・ペーパードライバー ②30代女性・未就学児2名を含む家族旅行・ペーパードライバー（夫は運転しないため免許返納） ③40代女性・小学生を含む家族旅行・夫婦ともに運転に抵抗はない (レンタカーの予約ができなかったため公共交通を利用)
対象者の選定方法	個人ブログ等で公共交通による沖縄旅行を発信している旅行者にアプローチし、インタビュー調査を打診
実施時期	2022年10月13日
実施方法	オンラインによるインタビュー調査
調査項目	- 公共交通での移動による沖縄旅行実施の理由 - 公共交通での移動の際に用いたツール - 公共交通での沖縄旅行の満足度 - 移動における困りごと - 移動手段に関する情報収集 等

① 沖縄の公共交通の観光・旅行における旅行者側のニーズ把握 (旅行者インタビュー)

▼ 調査結果詳細

	①20代・ 恋人との旅行	②30代・ 未就学児連れ家族旅行	③40代・ 小学生連れ家族旅行
車の運転への抵抗	・あり（ペーパードライバー）	・あり（ペーパードライバー）	・なし（日常的に使用）
直近の沖縄旅行の概要	・2022年7月上旬 3泊4日 ・北部リゾートホテル1か所に滞在	・2021年8月上旬 4泊5日 ・1泊那覇市内、3泊北部リゾート	・2022年7月上旬 3泊4日 ・本部町2泊、恩納村1泊
過去の沖縄旅行経験	・家族と2回、友人と3回。 ・有名な観光地は一通り行った。 ・ 全て同行者が運転。	なし	・7,8回 ・リゾート目的で行くので北部のリゾートエリアが多い。 ・ 全てレンタカーを運転
公共交通での移動による 沖縄旅行実施の理由	運転が苦手だから	運転しないため	飛行機とホテルを先に予約し、最後にレンタカーを手配しようとしたら全く空いてなかったため。
移動の際に用いたツール	・エアポートシャトル (空港⇄ホテル) ・ それ以外の移動は諦めていた。	・モノレール（空港⇒那覇市内） ・リムジンバス（那覇⇒北部リゾートホテル） ・エアポートシャトル（ホテル⇒空港） ※ホテルから2キロ以内の移動は、ホテルのトゥクトゥクによる送迎サービスを利用	・タクシー（空港⇒那覇港、ホテル⇒本部港） ・高速船（那覇港⇒本部） ・フェリー（本部⇄水納島） ・エアポートシャトル（本部⇒恩納村、恩納村⇒空港）
車なし沖縄旅行の満足度	・ 車がないと割り切っていたので、満足度は高かった。 車があった方が楽しめると思うが、行かない理由にはならない。 ・小さい島であればサイクリングでも回れそうということは調べている。	・沖縄はレンタカーがメインなので、 車がない自分たちは仕方ないとハードル下げていた ので 楽しく過ごせた。 ・ホテルまで往復できればラッキーくらいな気持ちでいた。	車なし前提で行程を作ったので 満足度は高かった。

① 沖縄の公共交通の観光・旅行における旅行者側のニーズ把握 (旅行者インタビュー)

▼ 調査結果詳細

	①20代	②30代	③40代
沖縄旅行での移動における困りごと	・飛行機からシャトルバスの乗り継ぎ時間が予測できない、シャトルバスの混雑度合いがわからない。事前に時間に余裕を持ってバスを予約したため、結果的に沖縄での滞在時間が短くなってしまい残念だった。 ・ホテル滞在に不満はなかったが、ホテルの選択肢が狭まってしまった。もっと観光地にも行きたかった。	・ベビーカーやスーツケースをもっていたので、バス停までの移動は大変だった。 ・ホテルから2キロを超える移動はトゥクトゥクサービスを利用できず、ちょっとした移動のときにハードルが高くなってしまった。 ・行けたら楽しそうな観光スポット（美ら海水族館やネオパーク）へのバスなど調べたが、ホテルからの手段が探せなかった。	・車で5分程度の移動について、暑いので徒歩は避けたいが、タクシーを呼ぶほどでもない。自転車があったらいいと思った。買い物やカフェに行きたかったが手段がなく行けなかった。 ・ホテルから空港を検索したときに路線バスも出てきたが、乗り場等細かい情報がわからず、エアポートシャトルを使った。
移動手段に関する情報収集	・飛行機とシャトルバスの乗り継ぎや時刻表は、HPを調べて事前予約した。 ・バスを降りたときにホテルの場所がわからなかったが、バスの運転手が親切に教えてくれた。	・インターネットで調べたが、レンタカー前提のブログがほとんどで、レンタカーなしの旅行は那覇市内の情報しかなかったため、ホテルに問い合わせをして、ホテル側から提案があったものを使った。	・事前に調べたのはインターネットとガイドブックだったが、どちらもレンタカー前提だったので、自分でインターネットで移動手段を検索して調べた。
ブログ等でレンタカーを使わない沖縄旅行を発信した理由	・文章を書くのが好きでブログを書いているが、旅行は普段の日常とは違うので、残しておきたい。 ・友人とのクローズドなInstagramでは、沖縄旅行で車を使用しなかったことに対して驚かれることが多かった。	・沖縄に関してはレンタカーブログしか情報がないので使命感で書いた。 ・子連れ旅行に関しては、企業などが書いたものばかりで実際の体験や内容の濃いブログがなかったので、役立つことを発信したかった。	・レンタカーなしでの沖縄旅のブログがなかったので、自分たちが書いたほうがいと夫に勧めた。 ・ガイドブックもレンタカーが前提だった。
あったら嬉しい交通サービス	・海外のUberのように、運転手の評価がわかるなど、アプリの利便性が上回るのであれば使う。海外では旅行中に使った。	・Uberは海外では使っている。 ・アプリで事前に料金が分かりネット決済できるので便利。渋滞で加算もないので安心感。 ・運転手付きレンタカーサービスも個人的には魅力的。	・ライドシェアサービスは、どんな人が運転手かわからない場合や、事故など何かあったときが心配。目的地(宿泊施設等)と紐づいていたら違和感なく乗れる。

① 沖縄の公共交通の観光・旅行における旅行者側のニーズ把握 (旅行者インタビュー)

▼ 調査結果概要

- 旅行の計画時における、車を使用しない便利な県内移動情報が不足
特に「子連れの車なし旅行」について、旅行者の実体験に基づく情報が不足
- 沖縄旅行は「車がないと周遊が楽しめない」というイメージが定着
- 車なしの旅行でも、事前に計画を立てていれば、相応の満足感を得られる
- 徒歩20～30分程度の距離のスポットにおいて、機動的なラストワンマイル手段の不足により、訪問機会を損失
- Uberのような運転手の顔が見えるライドシェアサービスは、旅行者に一定の魅力がある

②旅行者の地方観光地での移動手段に関する調査（WEBアンケート）

- 旅行者の地方観光地への旅行における、公共交通等による域内移動のニーズや傾向について把握するため、WEBアンケート調査を実施

▼調査概要

項目	概要
調査対象	- 過去5年以内に車を用いない宿泊旅行※を行っており、かつ旅行先での車の運転に抵抗がある・自信がない、運転免許を持っていない全国18歳～49歳の男女 - 調査会社のパネルより抽出 ※旅行先での交通手段として車利用がメインではない都道府県（（公財）日本交通公社「JTBF旅行実態調査2021」にて、「レンタカー」と「自家用車」の利用率計が5割未満の都道府県（東京都、神奈川県、京都府、大阪府、奈良県、広島県）への旅行は除いた。
実施時期	2022年11月25日～28日
実施方法	オンライン調査
調査項目	- 過去5年以内におこなった車なし旅行での経験 - 旅行先での移動で重視すること - 沖縄への来訪意向 - 次に沖縄旅行をする際の同行者、使ってみたい移動手段 等
サンプル数	1,100人

②旅行者の地方観光地での移動手段に関する調査 (WEBアンケート)

▼調査結果詳細

1. 過去5年以内におこなった車なし旅行について

1)利用した交通手段 × 同行者

- 車なし旅行で利用した交通手段として、全体のうち約8割が「列車」を選択(複数回答)。
- このうち列車のみを利用した人は46%、列車以外も利用した人は54%であった。
- 同行者別に見ると、『未就学児を含まない家族連れ』と『4人以上の友人』では、列車以外の交通手段を利用した割合が比較的高い。

	夫婦・恋人 n=208	家族(未就学 児含む) n=71	家族(未就学 児含まない) n=225	友人 (2~3人) n=173	友人 (4人以上) n=78	ひとり n=316	その他 n=29	合計 n=1100
列車	76.0%	76.1%	77.3%	83.2%	57.7%	85.1%	55.2%	78.2%
自家用車	6.3%	15.5%	10.7%	2.3%	5.1%	3.2%	0.0%	6.0%
レンタカー	9.1%	9.9%	8.4%	4.6%	10.3%	2.2%	3.4%	6.3%
貸切バス・定期観光バス	7.2%	8.5%	13.3%	6.9%	37.2%	6.6%	24.1%	10.9%
駅や空港からのシャトルバス	11.5%	8.5%	8.9%	9.8%	9.0%	10.1%	3.4%	9.7%
地域内巡回バス	5.8%	5.6%	4.0%	8.1%	1.3%	4.7%	6.9%	5.2%
コミュニティバス	2.4%	4.2%	0.9%	2.3%	3.8%	2.2%	0.0%	2.2%
オンデマンドバス	0.5%	5.6%	1.8%	0.0%	1.3%	1.3%	3.4%	1.4%
路線バス	17.8%	12.7%	15.6%	20.2%	9.0%	25.3%	10.3%	18.7%
タクシー・ハイヤー・その他配車サービス	4.8%	15.5%	11.6%	10.4%	6.4%	5.4%	10.3%	8.2%
ホテルや観光施設の送迎	8.2%	9.9%	4.9%	6.4%	7.7%	2.8%	3.4%	5.6%
観光タクシー	3.8%	7.0%	2.7%	1.2%	2.6%	1.9%	3.4%	2.7%
レンタサイクル	3.8%	4.2%	0.4%	1.7%	3.8%	4.4%	0.0%	2.9%
レンタルの原付・バイク	1.9%	5.6%	1.3%	0.0%	1.3%	0.9%	0.0%	1.4%
レンタルの電動キックボード等	1.4%	5.6%	0.0%	0.0%	1.3%	1.6%	0.0%	1.2%
船(フェリー、観光船等)	2.9%	7.0%	6.2%	5.8%	2.6%	7.9%	0.0%	5.6%
徒歩のみ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	1.9%	0.0%	3.1%	2.3%	2.6%	5.1%	20.7%	3.5%

	夫婦・恋人 n=208	家族(未就学 児含む) n=71	家族(未就学 児含まない) n=225	友人 (2~3人) n=173	友人 (4人以上) n=78	ひとり n=316	その他 n=29	合計 n=1100
列車のみ利用	46.2%	50.7%	40.9%	48.6%	34.6%	50.6%	31.0%	45.8%
列車以外も利用	53.8%	49.3%	59.1%	51.4%	65.4%	49.4%	69.0%	54.2%

②旅行者の地方観光地での移動手段に関する調査 (WEBアンケート)

1. 過去5年以内におこなった車なし旅行について

2)旅行前に交通について情報収集する際の不便 × 同行者

- 全体として「乗り場情報が見つけない」「リアルタイムの混雑・運行状況がわからない」「時刻表が見つけない」の選択率が高く、公共交通の基本的な情報に関して、事前の情報収集ができていないことが課題として挙げられる。
- 『未就学児を含む家族連れ』は全体的に選択する項目が多い(困りごとが多い)。

	夫婦・恋人 n=208	家族 (未就学児含む) n=71	家族 (未就学児含まない) n=225	友人 (2~3人) n=173	友人 (4人以上) n=78	ひとり n=316	その他 n=29	合計 n=1100
時刻表が見つけない	19.2%	22.5%	16.9%	19.7%	19.2%	17.7%	13.8%	18.5%
乗り場情報が見つけない	21.2%	26.8%	22.2%	19.1%	9.0%	22.5%	13.8%	20.7%
リアルタイムの混雑・運行状況がわからない	17.8%	32.4%	18.7%	22.5%	24.4%	15.5%	10.3%	19.3%
運行会社によって情報がばらばら	16.3%	18.3%	13.8%	10.4%	9.0%	11.1%	0.0%	12.5%
レンタル自転車等の情報がばらばら	6.7%	9.9%	4.9%	4.6%	5.1%	4.7%	0.0%	5.4%
観光地等が公共交通での行き方を掲載していない	8.7%	15.5%	8.4%	3.5%	9.0%	9.2%	0.0%	8.2%
降車場所からの所要時間がわからない	12.5%	18.3%	12.0%	11.6%	5.1%	10.1%	3.4%	11.2%
降車場所からの移動の快適さがわからない	9.1%	9.9%	11.6%	10.4%	7.7%	5.7%	10.3%	8.8%
周遊する際の移動計画が立てられない	11.1%	11.3%	8.9%	10.4%	7.7%	6.3%	6.9%	8.8%
所要時間や金額の比較ができない	10.6%	16.9%	13.3%	12.1%	7.7%	8.5%	6.9%	10.9%
事前予約や事前決済ができない	1.9%	7.0%	1.8%	2.3%	2.6%	1.9%	0.0%	2.3%
その他	0.5%	1.4%	0.4%	0.6%	0.0%	0.3%	0.0%	0.5%
不便に感じたことは特にない	41.8%	36.6%	47.1%	42.8%	51.3%	53.2%	65.5%	47.3%

②旅行者の地方観光地での移動手段に関する調査 (WEBアンケート)

1. 過去5年以内におこなった車なし旅行について

3)実際に交通を利用した際の不便 × 同行者

- 全体として、「行きたい観光地への便数が少ない」「一次交通からの乗り継ぎが悪い」「大きい荷物があると利用しづらい」が課題として挙げられる。
- 『未就学児を含む家族連れ』では、「小さい子供がいると利用しづらい」の選択率が最も高く、「宿泊施設から飲食店に行く手段がない」の選択率も他の同行者と比較して高い。

	夫婦・恋人 n=208	家族 (未就学児含む) n=71	家族 (未就学児含まない) n=225	友人(2~3人) n=173	友人(4人以上) n=78	ひとり n=316	その他 n=29	合計 n=1100
一次交通からの乗り継ぎが悪い	18.3%	18.3%	13.3%	15.0%	15.4%	20.3%	10.3%	16.9%
宿泊施設から飲食店等に行く手段がない	8.2%	22.5%	11.1%	7.5%	5.1%	7.9%	3.4%	9.2%
行きたい観光地への便数が少ない	24.0%	23.9%	20.4%	26.0%	20.5%	24.1%	6.9%	22.9%
行きたい観光地の近くに停留所がない	15.4%	14.1%	10.2%	11.0%	5.1%	13.0%	13.8%	12.1%
時刻表通りの時間に来ない	5.3%	11.3%	8.4%	6.4%	5.1%	7.6%	3.4%	7.1%
移動に関して相談できる相手がいない	6.3%	15.5%	9.3%	6.9%	5.1%	5.4%	3.4%	7.2%
悪天候時の利便性が悪い	10.1%	11.3%	10.2%	8.1%	11.5%	6.3%	3.4%	8.7%
小さい子供がいると利用しづらい	3.4%	29.6%	4.4%	2.3%	2.6%	2.5%	0.0%	4.7%
体の不自由な同行者がいると利用しづらい	5.3%	5.6%	6.2%	2.3%	2.6%	0.6%	0.0%	3.4%
大きい荷物があると利用しづらい	13.5%	23.9%	16.4%	20.8%	21.8%	12.0%	20.7%	16.3%
他人と同乗すること(3密)が気になる	7.2%	12.7%	4.4%	4.0%	9.0%	4.7%	3.4%	5.8%
運転手の態度・マナーが悪い	3.8%	4.2%	3.6%	1.2%	3.8%	2.5%	0.0%	2.9%
カード決済に対応していない	4.3%	7.0%	7.1%	6.9%	9.0%	7.0%	3.4%	6.5%
スマホ決済に対応していない	3.4%	5.6%	6.7%	5.8%	6.4%	7.0%	3.4%	5.8%
交通系アプリのダウンロードが面倒	1.4%	4.2%	1.3%	0.6%	1.3%	1.9%	0.0%	1.5%
その他	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.5%
不便に感じたことは特にない	40.9%	28.2%	41.3%	40.5%	48.7%	45.9%	58.6%	42.5%

②旅行者の地方観光地での移動手段に関する調査 (WEBアンケート)

1. 過去5年以内におこなった車なし旅行について

4)-1 交通に関する情報収集源 × 同行者

- 旅行前、旅行中ともに「Googleマップ等の路線検索」は全体的に選択率が高い。
- 「自治体や観光協会等のHP」「旅行会社のHP」は旅行前では選択率が高く、旅行中では低くなる。
- 『未就学児を含む家族連れ』は、他の同行者グループに比べ、旅行前の情報収集源として「自治体や観光協会等のHP」「鉄道・バス・タクシー運行会社のHP」「一般人のブログ記事」の選択率が高い。

		同行者 (6区分)							
		夫婦・恋人	家族 (未就学児含む)	家族 (未就学児含まない)	友人 (2~3人)	友人 (4人以上)	ひとり	その他	合計
		n=208	n=71	n=225	n=173	n=78	n=316	n=29	n=1100
旅行前の情報収集源	自治体や観光協会等のHP	31.3%	43.7%	24.4%	34.1%	26.9%	29.7%	13.8%	29.9%
	旅行会社のHP	16.3%	19.7%	18.7%	19.7%	20.5%	13.0%	3.4%	16.5%
	その地域独自の交通系アプリ	9.1%	9.9%	9.3%	8.1%	11.5%	7.3%	3.4%	8.5%
	鉄道・バス・タクシー運行会社	25.5%	31.0%	20.9%	17.9%	16.7%	30.4%	27.6%	24.5%
	宿泊施設のHP	33.7%	21.1%	25.8%	27.2%	23.1%	22.2%	13.8%	25.6%
	旅行雑誌	12.0%	11.3%	16.4%	11.6%	14.1%	5.7%	0.0%	10.8%
	Google Maps等の路線検索	37.0%	35.2%	25.3%	41.0%	28.2%	37.7%	10.3%	34.0%
	一般人のブログ記事	6.7%	16.9%	4.0%	5.2%	2.6%	10.4%	3.4%	7.3%
	SNS	17.3%	7.0%	12.9%	22.0%	14.1%	11.4%	3.4%	14.2%
	その他	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	2.2%	0.0%	0.8%
	情報収集はしていない	18.8%	18.3%	29.8%	22.5%	26.9%	25.9%	51.7%	25.1%
旅行中の情報収集源	自治体や観光協会等のHP	13.0%	22.5%	11.6%	16.8%	16.7%	14.9%	0.0%	14.4%
	旅行会社のHP	5.3%	9.9%	8.4%	7.5%	9.0%	4.4%	3.4%	6.5%
	その地域独自の交通系アプリ	6.3%	8.5%	8.4%	4.6%	7.7%	7.0%	6.9%	6.9%
	鉄道・バス・タクシー運行会社	19.7%	25.4%	12.0%	15.6%	11.5%	22.5%	17.2%	18.0%
	宿泊施設のHP	13.5%	9.9%	8.0%	9.2%	9.0%	7.6%	3.4%	9.2%
	旅行雑誌	5.3%	9.9%	11.6%	5.2%	2.6%	4.1%	0.0%	6.2%
	Google Maps等の路線検索	34.6%	38.0%	24.0%	42.2%	34.6%	38.0%	6.9%	34.1%
	一般人のブログ記事	5.8%	2.8%	1.8%	2.3%	1.3%	5.7%	0.0%	3.7%
	SNS	13.5%	9.9%	10.7%	16.8%	12.8%	10.8%	3.4%	12.1%
	その他	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	1.3%	2.2%	0.0%	0.8%
	情報収集はしていない	24.5%	19.7%	40.4%	26.6%	34.6%	33.9%	65.5%	32.3%

②旅行者の地方観光地での移動手段に関する調査 (WEBアンケート)

1. 過去5年以内におこなった車なし旅行について

4)-2 交通に関する情報収集源 × 年代

- 旅行前、旅行中ともに「Google マップ等の路線検索」はどの年代でも選択率が高い。また、年代が高くなるほど利用率が低くなる傾向にあるが、『40代』でも3割は利用。
- 『10代』『20代』では30代以上と比較して「SNS」の選択率も高い。

		年齢 (10歳区切り)				
		10代 (18~19歳)	20代	30代	40代	合計
		n=100	n=400	n=400	n=200	n=1100
旅行前の情報収集源	自治体や観光協会等のHP	19.0%	30.8%	30.0%	33.5%	29.9%
	旅行会社のHP	12.0%	16.8%	17.0%	17.5%	16.5%
	その地域独自の交通系アプリ	6.0%	11.3%	6.5%	8.5%	8.5%
	鉄道・バス・タクシー運行会社のHP	13.0%	24.0%	24.5%	31.5%	24.5%
	宿泊施設のHP	18.0%	24.3%	25.3%	33.0%	25.6%
	旅行雑誌	7.0%	12.3%	9.8%	12.0%	10.8%
	Google Maps等の路線検索	37.0%	34.5%	34.0%	31.5%	34.0%
	一般人のブログ記事	8.0%	4.5%	9.0%	9.0%	7.3%
	SNS	17.0%	20.8%	10.3%	7.5%	14.2%
	その他	1.0%	0.5%	0.5%	2.0%	0.8%
	情報収集はしていない	36.0%	24.0%	24.5%	23.0%	25.1%
旅行中の情報収集源	自治体や観光協会等のHP	7.0%	16.0%	14.3%	15.0%	14.4%
	旅行会社のHP	4.0%	7.3%	7.8%	4.0%	6.5%
	その地域独自の交通系アプリ	6.0%	8.0%	5.5%	8.0%	6.9%
	鉄道・バス・タクシー運行会社のHP	11.0%	16.5%	19.8%	21.0%	18.0%
	宿泊施設のHP	5.0%	9.8%	9.8%	9.0%	9.2%
	旅行雑誌	3.0%	5.5%	6.8%	8.0%	6.2%
	Google Maps等の路線検索	37.0%	36.8%	33.8%	28.0%	34.1%
	一般人のブログ記事	2.0%	3.3%	4.0%	5.0%	3.7%
	SNS	16.0%	16.3%	9.3%	7.5%	12.1%
	その他	2.0%	0.5%	0.3%	2.0%	0.8%
	情報収集はしていない	40.0%	29.0%	32.3%	35.0%	32.3%

②旅行者の地方観光地での移動手段に関する調査（WEBアンケート）

2. 旅行先の移動や過ごし方に対する考え

旅行先の移動で重視すること（5段階評価） × 同行者

- 全体として、「安全性」「安価」「快適」「時間通りの運行」の重要度が高い。
- 家族連れの場合「安全性」が重視される。さらに『未就学児を含む家族連れ』の場合は「待ち時間の少なさ」についても重要度が高い。また、『4人以上の友人』、『ひとり』の場合「安価」が重視される。

	夫婦・恋人	家族 (未就学児 含む)	家族 (未就学児 含まない)	友人 (2～3人)	友人 (4人以上)	ひとり	その他	合計
	n=208	n=71	n=225	n=173	n=78	n=316	n=29	n=1100
3密回避	3.76	3.76	3.82	3.68	3.62	3.51	3.83	3.68
安全性	4.03	4.11	4.14	4.09	4.04	3.84	4.03	4.01
乗換え無し	3.73	3.87	3.78	3.61	3.71	3.60	3.83	3.69
安価	3.97	3.97	4.02	4.03	4.05	4.07	4.28	4.03
快適	4.04	4.00	4.09	3.91	3.81	3.83	4.17	3.95
時間通り	3.95	3.93	3.95	3.95	3.85	3.94	4.10	3.94
短時間移動	3.64	3.72	3.64	3.68	3.72	3.49	3.69	3.62
待時間少	3.81	3.97	3.86	3.80	3.83	3.72	3.79	3.81
衛生面	3.83	3.79	3.90	3.80	3.97	3.66	3.93	3.80
個室空間	3.19	3.37	3.44	3.27	3.31	3.02	3.45	3.23
大スペース	3.31	3.62	3.48	3.42	3.51	3.16	3.59	3.36
他者運転	3.53	3.62	3.58	3.54	3.49	3.45	3.76	3.53
有意義な情報提供	3.63	3.73	3.57	3.64	3.71	3.38	3.52	3.56
手続きの簡素化	3.72	3.69	3.79	3.77	3.67	3.67	3.76	3.72
有意義に過ごす	3.63	3.68	3.66	3.67	3.62	3.60	3.79	3.64
環境配慮	3.09	2.99	3.17	3.06	3.32	2.93	3.17	3.07
プレミアム感	3.14	3.06	3.22	3.06	3.01	2.84	3.10	3.05
ユニークな仕様	3.05	3.08	3.20	3.06	3.28	2.94	3.10	3.07

※数字は、各項目について、5段階評価（5=とても重視する、1=全く重視しない）した場合の平均である。

※同行者ごとに、重要度が高い項目を濃いオレンジで示している。

②旅行者の地方観光地での移動手段に関する調査（WEBアンケート）

3. 次に沖縄へ旅行する際の意向について

1)-1 車での移動が主となる観光地への来訪意向 × 沖縄旅行の同行者

- 全体として、「レンタカーや自家用車以外の交通手段で旅行したい」と回答した割合が最も高い。また、「その地域に魅力を感じればレンタカーや自家用車で旅行したい」「徒歩などで行動できる範囲で旅行したい」を合わせると、全体の約8割が来訪意向を持っている。
- 同行者別に見ると、『未就学児を含む家族連れ』では「そのような地域は旅行先に選ばない」の選択率が低く、「魅力を感じればレンタカーや自家用車で旅行したい」の選択率が比較的高い。

	次に沖縄旅行をする際の同行者（6区分）						
	夫婦・恋人 n=155	家族（未就学児含む） n=50	家族（未就学児含まない） n=120	友人（2～3人） n=142	友人（4人以上） n=46	ひとり n=136	合計 n=649
その地域に魅力を感じればレンタカーや自家用車で旅行したい	29.7%	40.0%	20.8%	21.1%	28.3%	19.9%	24.8%
レンタカーや自家用車以外の交通手段で旅行したい	33.5%	48.0%	52.5%	41.5%	41.3%	46.3%	43.1%
徒歩などで行動できる範囲で旅行したい	16.1%	8.0%	11.7%	14.8%	10.9%	19.1%	14.6%
そのような地域は旅行先に選ばない	20.6%	4.0%	15.0%	22.5%	19.6%	14.7%	17.4%

②旅行者の地方観光地での移動手段に関する調査（WEBアンケート）

3. 次に沖縄へ旅行する際の意向について

1)-2 車での移動が主となる観光地への来訪意向 × 年代

- 『10代』では、運転免許を持っていない割合が7割以上と高く、車での移動が主となる観光地への旅行については、「そのような地域は旅行先に選ばない」の回答が最も多い。
- 20代以上では、「レンタカーや自家用車以外の交通手段で旅行したい」が最も多い。

	10代 (18～19歳) n=65	20代 n=248	30代 n=221	40代 n=115	合計 n=649
その地域に魅力を感じればレンタカーや自家用車で旅行したい	 24.6%	 25.8%	 24.4%	 23.5%	 24.8%
レンタカーや自家用車以外の交通手段で旅行したい	 29.2%	 <u>43.5%</u>	 <u>43.9%</u>	 <u>48.7%</u>	 43.1%
徒歩などで行動できる範囲で旅行したい	 3.1%	 16.5%	 17.2%	 12.2%	 14.6%
そのような地域は旅行先に選ばない	 <u>43.1%</u>	 14.1%	 14.5%	 15.7%	 17.4%

	10代 (18～19歳) n=100	20代 n=400	30代 n=400	40代 n=200	合計 n=1100
運転免許を持っているが、レンタカーの運転には少し抵抗がある	 14.0%	 30.0%	 33.0%	 36.0%	 30.7%
運転免許を持っているが、レンタカーの運転には自信がない	 13.0%	 42.8%	 48.0%	 45.0%	 42.4%
運転免許を持っておらず、レンタカーを利用することはない	 <u>73.0%</u>	 27.3%	 19.0%	 19.0%	 26.9%

②旅行者の地方観光地での移動手段に関する調査 (WEBアンケート)

3. 次に沖縄へ旅行する際の意向について

2)-1沖縄で利用したいラストワンマイル※¹の手段 × 沖縄旅行の同行者

- 全体でみると、「徒歩」の選択率が最も高く、「徒歩」以外では「電動のレンタサイクル」が高い。
- 同行者別では、『未就学児を含む家族連れ』は、「徒歩」の選択率が低く、「観光スポットの巡回バス」「地域のコミュニティバス」「タクシー・ハイヤー」「カーゴバイク」の選択率が比較的高い。特に「カーゴバイク」※²は他の同行者と比較して選択率が高い。
- 「タクシー・ハイヤー」は家族連れで比較的选择率が高い。
- 「電動のレンタサイクル」は『夫婦・恋人』と『ひとり』で選択率が比較的高い。

	次に沖縄旅行をする際の同行者 (6区分)						
	夫婦・恋人	家族 (未就学児含む)	家族 (未就学児含まない)	友人 (2~3人)	友人 (4人以上)	ひとり	合計
	n=155	n=50	n=120	n=142	n=46	n=136	n=649
電動でないレンタサイクル	21. 3%	14. 0%	21. 7%	21. 8%	23. 9%	30. 9%	23. 1%
電動のレンタサイクル	43. 2%	32. 0%	35. 8%	36. 6%	26. 1%	41. 2%	37. 9%
カーゴバイク ※ ²	5. 8%	22. 0%	9. 2%	4. 2%	4. 3%	6. 6%	7. 4%
電動カート	10. 3%	14. 0%	13. 3%	7. 7%	15. 2%	9. 6%	10. 8%
セグウェイ	11. 0%	16. 0%	10. 8%	10. 6%	13. 0%	11. 8%	11. 6%
レンタルの原付・バイク	4. 5%	4. 0%	7. 5%	3. 5%	10. 9%	5. 1%	5. 4%
レンタルの電動キックボード	4. 5%	6. 0%	4. 2%	5. 6%	15. 2%	3. 7%	5. 4%
観光スポットの巡回バス	36. 1%	40. 0%	34. 2%	33. 8%	34. 8%	26. 5%	33. 4%
地域のコミュニティバス	30. 3%	34. 0%	23. 3%	25. 4%	26. 1%	19. 9%	25. 7%
トゥクトゥク ※ ³	16. 1%	20. 0%	15. 0%	11. 3%	15. 2%	11. 8%	14. 2%
タクシー・ハイヤー	24. 5%	32. 0%	34. 2%	25. 4%	15. 2%	17. 6%	25. 0%
UberやDiDi等	6. 5%	10. 0%	9. 2%	6. 3%	6. 5%	6. 6%	7. 2%
徒歩で移動する	41. 3%	32. 0%	39. 2%	44. 4%	39. 1%	44. 9%	41. 4%
その他	1. 3%	0. 0%	0. 0%	0. 0%	2. 2%	0. 0%	0. 5%

※¹ 本調査では、「宿泊地や主要観光地から、徒歩30分程度の移動(例：飲食店に行く、コンビニや買い物に行く、次の観光スポットに移動する等)」をラストワンマイルと定義した。

※² 大きな荷物や子供を乗せて運搬できる自転車のこと。

※³ 東南アジア等で多く利用されている三輪自動車のこと。

②旅行者の地方観光地での移動手段に関する調査（WEBアンケート）

3. 次に沖縄へ旅行する際の意向について

2)-2 沖縄で利用したいラストワンマイルの手段 × 年代

- 40代以外では「徒歩」が最も選択率が高く、『40代』は「徒歩」以外の選択率が全体的に高い。
- 「電動のレンタサイクル」はどの年代も選択率が高いが、特に『40代』は5割を超える。
- 年代が上がるにつれ、「タクシー・ハイヤー」や「観光スポットの巡回バス」の選択率が上がる傾向にある。

	年齢（10歳区切り）				
	10代（18～19歳）	20代	30代	40代	合計
	n=100	n=400	n=400	n=200	n=1100
電動でないレンタサイクル	13.8%	23.8%	23.5%	26.1%	23.1%
<u>電動のレンタサイクル</u>	27.7%	37.9%	34.4%	<u>50.4%</u>	37.9%
カーゴバイク	6.2%	7.7%	8.6%	5.2%	7.4%
電動カート	10.8%	9.7%	14.0%	7.0%	10.8%
セグウェイ	10.8%	13.3%	11.3%	8.7%	11.6%
レンタルの原付・バイク	4.6%	6.5%	4.5%	5.2%	5.4%
レンタルの電動キックボード	3.1%	7.7%	5.4%	1.7%	5.4%
観光スポットの巡回バス	21.5%	31.9%	<u>33.0%</u>	<u>44.3%</u>	33.4%
地域のコミュニティバス	12.3%	28.6%	21.7%	34.8%	25.7%
トゥクトゥク	7.7%	14.9%	14.5%	15.7%	14.2%
タクシー・ハイヤー	7.7%	21.8%	<u>28.1%</u>	<u>35.7%</u>	25.0%
UberやDiDi等	4.6%	9.3%	6.8%	5.2%	7.2%
<u>徒歩で移動する</u>	47.7%	44.0%	43.9%	27.8%	41.4%
その他	1.5%	0.8%	0.0%	0.0%	0.5%

②旅行者の地方観光地での移動手段に関する調査（WEBアンケート）

▼調査結果概要

- 沖縄のような、車での移動が主となる観光地であっても、「車以外の交通手段で旅行ができる」、あるいは「その地域に魅力が感じられれば」車の運転に抵抗がある人や免許を持っていない人にも旅行先として選ばれる
- 「乗り場情報」「時刻表」「リアルタイム運行状況」といった公共交通の基本的な情報が見つけないことが課題
- 『未就学児を含む家族連れ』は、他の同行者グループに比べ、旅行先での車を使わない移動に関して不便を感じる場面が多い
- 旅行時の移動で重視することは、「安全」「安心」「快適」「定時制」
- 沖縄で利用したいラストワンマイルの移動手段としては、「電動のレンタサイクル」が最も多い。『未就学児を含む家族連れ』は他の同行者グループと比べ、特に「カーゴバイク」を選択

③観光地間の移動サービスにおける可能性調査（事業者ヒアリング）

- 既存の公共交通（路線バス、モノレール）では網羅しきれない、路線バス停留所や宿泊地から観光スポットまでの移動支援や、レンタカー移動に類似する“周遊型サービス”の沖縄での導入(可能性)について、事業者（県内外は問わず）の取組やニーズ、課題を把握するため、ヒアリングを実施

▼調査概要

項目	概要
調査対象	- ワンマイル交通に関係する、県内3事業者及び県外1事業者 ①WILLERグループ（AIオンデマンド交通サービス※「mobi」の運行）＊沖縄県外 ②沖縄交通グループ（タクシー事業）＊沖縄県内 ③株式会社ゴールドストーンブラザーズ（電動キックボード「Rimo」のレンタル・リース）＊沖縄県内 ④沖縄トウクトウ株式会社（トウクトウの販売、メンテナンス）＊沖縄県内
実施時期	2022年12月16,22,23日
実施方法	対面式によるヒアリング
調査項目	- 事業内容 - 提供サービスの価値 - 沖縄における課題と可能性 等

※「オンデマンド交通」とは、経路・乗降地点・時刻のいずれか、あるいはすべてに柔軟性を持たせることで、利用者の要求に応じて運行する乗合型の公共交通サービス形態。
 また「AIオンデマンド交通」は、利用者の予約に応じて、AIが選ぶ最適な運行ルートや配車を、リアルタイムに提供するオンデマンド交通サービス。

③観光地間の移動サービスにおける可能性調査（事業者ヒアリング）

▼調査結果概要

【ワンマイル交通導入の便益】

- ワンマイル交通サービスの導入は、今まで行けなかった場所に行けるという点で、移動の総量を増加させているため、新たな経済効果を生むことに寄与している（WILLER、Rimo）
- トクトクや電動キックボードは、移動そのものが楽しめる、まさに沖縄に合ったサービスとして打ち出せる。また、これらの乗り物はホテルや観光協会、レンタカー事業者等での導入（納品）も増えている（Rimo、沖縄トクトク）
- マイカーやレンタカーから公共交通への転換は環境に優しいという側面もある。「環境に優しい旅をする沖縄」を打ち出す一環として、車以外の旅行を促進するブランディングは必要であり有効（WILLER、Rimo）

【需要獲得のための新たな取組】

- タクシー配車アプリは若年層による利用が多い（沖東交通）
- 直近ではタクシーの相乗りサービスが解禁されており、当社で携わった相乗り実証実験の結果でも概ね旅行者の抵抗感は低く、お得に移動できる手段となっている。配車アプリのデータ活用等も含め、新たな取組によって、利便性を高めるとともに、企業としても収益性を高め、業界の至上命題である「若い世代の運輸業への就業」にもつなげたい（沖東交通）

【連携による可能性】

- 地域との連携や交通サービス同士の連携は地域としても事業者としてもポテンシャルがあり、観光客の利便性も向上させるため、今後の連携も視野に入れている（沖東交通、Rimo、沖縄トクトク）
- mobiのようなAIオンデマンド交通は、観光地での導入も可能であるとともに、地元事業者が運行を担うため、利用者の利便性向上に寄与するとともに、地域のバス、タクシー事業者の安定収入（収益多角化）につながる（WILLER）

【オンデマンド交通と制度面】

- mobiは全国9都市で展開しているが（2023年2月現在では11都市）、道路運送法第21条における期間限定の「実証実験」による運行としている（WILLER）

（３）今後の沖縄観光における二次交通についての課題整理・考察

① 調査結果のポイント (1 / 2)

■ 「沖縄は車なしでは楽しめない」といったイメージが定着し、車を利用しない沖縄旅行の経験の共有（発信）も不足

- 旅行の計画時における、車を使用しない便利な県内移動情報が不足（旅行者インタビュー）
- 特に子連れの車なし旅行について、旅行者の実体験に基づく情報が得られない（旅行者インタビュー）
- 沖縄旅行は、車がないと周遊が楽しめないというイメージが定着（旅行者インタビュー）
- 車なしの旅行でも、事前に計画を立てていれば、相応の満足感を得られる（旅行者インタビュー）
- 沖縄のような、車での移動が主となる観光地であっても、「車以外の交通手段で旅行ができる」、あるいは「その地域に魅力が感じられれば」車の運転に抵抗がある人や免許を持っていない人にも旅行先として選ばれる（WEBアンケート）

■ 機動的なラストワンマイル手段の不足により、行きたい場所に行けなかった旅行者も存在

- 徒歩20～30分程度の距離のスポットにおいて、機動的なラストワンマイル手段がないため、訪問を断念した（旅行者インタビュー）
- 未就学児を含む家族連れは、他の同行者グループに比べ、旅行先での車を使わない移動に関して不便を感じる場面が多い（WEBアンケート）
- ワンマイル交通サービスの導入は移動の総量を増加させる（今まで行けなかった場所に行ける）（事業者ヒアリング）
- トウクトウクや電動キックボードは、移動そのものが楽しめる、まさに沖縄に合ったサービスとして打ち出すことが可能（但し、雨天・荒天時は使用が難しい）（事業者ヒアリング）
- 沖縄で利用したいラストワンマイルの移動手段としては、「電動のレンタサイクル」が最も多い（WEBアンケート）
- 未就学児を含む家族連れは利用したいワンマイル交通として、他の同行者と比べ、特に「カーゴバイク」を選択（WEBアンケート）

① 調査結果のポイント (2 / 2)

■ 旅行者は旅行先での移動において「安全」「安心」「快適」「定時制」を重視

- 旅行先の移動で重視することは、「安全」「安心」「快適」「定時制」(WEBアンケート)
- 情報収集時では、「乗り場情報」「時刻表」「リアルタイム運行状況」といった公共交通の基本的な情報が見つけにくいことが課題 (WEBアンケート)
- タクシー配車アプリは、運転手や到着時間等が可視化される安心感もあり、若年層による利用が多い (事業者ヒアリング)
- 配車アプリによるデータ活用や相乗りサービス等、新たな取組によって、利用者の利便性を高めるとともに、企業としても収益性を高め、若い世代の運輸業への就業にもつなげたい (事業者ヒアリング)

■ 地域×交通事業者や交通事業者間のコラボに可能性

- 地域との連携や交通サービス同士の連携は地域としても事業者としてもポテンシャルがあり、観光客の利便性も向上させるため、今後の連携も視野に入れている (事業者ヒアリング)
- mobiのようなAIオンデマンド交通は、観光地での導入も可能であるとともに、地元事業者が運行を担うため、利用者の利便性向上に加え、地元の交通事業者の安定収入に寄与 (事業者ヒアリング)

■ 現行制度の柔軟な運用により、旅行者や地元事業者に便益

- mobiは全国11都市で展開しているが(2023年2月現在)、道路運送法第21条における期間限定の「実証実験」による運行としている (事業者ヒアリング)
- Uberのような運転手の顔が見えるライドシェアサービスは、旅行者に一定の魅力がある (旅行者インタビュー)

②今後の沖縄観光のあり方（提言）

1. 「レンタカーを使わない沖縄旅行」の“実体験”情報も交えた発信強化による旅行者マインドの転換

- ✓ 便利さや不便さも含めた「リアルな沖縄旅」の発信を推進

（例）・旅行者ブログ、SNS投稿の推進

- ・「小さな子連れで旅をできるか」「旅行前の情報収集方法」「悪天候時の沖縄体験」「渋滞の時間帯」「交通サービスの決済方法」等、旅行者のリアルな旅の報告を発信

同行者：すべて

旅行スタイル：すべて

エリア：すべて

※なお、旅行者マインド転換の取組の一環として、沖縄県や沖縄観光コンベンションビューローにて、公共交通を利用したモデルコースの発信を実施

2. “沖縄にマッチした”“環境に優しい”ラストワンマイルに資する交通サービスの充実

- ✓ 機動力の高い移動サービスの充実による周遊促進

（例）・観光地や観光施設、宿泊施設等での電動レンタサイクル、電動キックボード等の整備

同行者：ペア/友人、ひとり旅

旅行スタイル：観光地巡り

エリア：地方部/離島

- ✓ 未就学児を含む家族連れへの対応

（例）・未就学児を載せての移動が容易なカーゴバイク等の移動サービス整備

同行者：子連れ家族

旅行スタイル：リゾートステイ

エリア：地方部/離島

- ✓ 沖縄特有の天気（雨天の多さ、炎天）への対応

（例）・オンデマンド交通（mobi等）等、天候に左右されにくい移動手段の整備

同行者：子連れ家族

旅行スタイル：観光地巡り、リゾートステイ

エリア：すべて

- ✓ 沖縄ならではの、移動そのものの楽しさの提供

（例）・トゥクトゥク等、沖縄の海や景色を楽しみながら移動することができる移動サービス整備

同行者：ペア/友人、子連れ家族

旅行スタイル：リゾートステイ

エリア：地方部/離島

※ では、課題への対応に適している同行者・旅行スタイル・エリアを記載（次ページ以降も同様）

②今後の沖縄観光のあり方（提言）

3. 快適な移動を担保するインフラ整備

- ✓ 車以外の移動に優しい道路整備
(例) ・バス専用レーンの整備による、路線バス等の公共交通の定時運行への貢献
・自転車専用レーンの整備による、快適な自転車や電動キックボードの走行空間の創出
- ✓ 車なし移動の所要時間や料金イメージの提示
(例) ・自転車等を用いた際の主要スポット間の移動時間マップの製作
・事前に配車や料金イメージの把握が可能な、タクシー配車アプリの推進
- ✓ 交通情報の集約・連携（Googleマップ等）
(例) ・「乗り場情報」「時刻表」「リアルタイム運行状況」といった公共交通の基本情報について、集約・連携による利便性の向上。さらにはタクシーやレンタサイクル等あらゆる二次交通情報を一元化
- ✓ バス停の刷新
(例) ・屋根・ベンチの設置（炎天・雨天対応）、バス停DX（運行情報、ホテル・観光地案内）

同行者：すべて

旅行スタイル：すべて

エリア：すべて

4. 地域や事業者間連携による最適化

- ✓ 地域（自治体、観光協会等）と交通事業者との連携や、交通事業者間の連携による利用者ニーズに沿ったサービスの提供
(例) ・地域と交通事業者が連携した、体験や宿泊、移動サービス等の提供
※ 既存の交通事業者や利用者、地域がwin-winの関係となる、持続可能な取組となることが求められる
・タクシー×電動キックボード、船×電動レンタサイクル等のセット商品の提供
・AIオンデマンド交通（mobi等）の地域政策としての導入

5. 制度面における検討

- ✓ 利便性や柔軟性の高いオンデマンド交通の導入
(例) ・オンデマンド交通の更なる展開
- ✓ タクシー等の少ない地域におけるライドシェアの実用に向けた検討
(例) ・海外でのuberサービスのよう、地域住民等が観光客を乗せて運行できるようなライドシェアサービスの試験的な実施

コラム ①

電動キックボード「Rimo」／株式会社ゴールドストーンブラザーズ

Rimoのサービスの概要

- ◆ 2019年10月に創業したRimoは、電動キックボード事業として、店舗でのレンタル事業とホテルや観光施設等へのリースを行うFC（フランチャイズ）事業の2つを行っている。店舗でのレンタルは、那覇空港駅前と恩納村の2か所で展開されているが、利用者数は右肩上がりであり、多い日では1日に70～80台ほどの利用がある。また、FCについては、沖縄県内では17～18箇所で実施しており、FC施設への電動キックボード車両のリースを行い、利用方法や料金設定等はFC店舗側で設定する方式としている。

電動キックボードの特性

- ◆ 電動キックボード導入により、地域での移動の総量を増加させる効果がある。これまで行きたいと思っていたが時間や場所の都合で行けなかった場所に、電動キックボードの利用により「空き時間で行くことができた」という利用者の声が多く、即効性と機動力が上がることで、新たな移動ニーズを満たしている。
- ◆ 電動キックボードは走行に際してはCO2を排出しない乗り物となるため、環境負荷の側面から、地域としての持続可能な観光地づくりのブランディングとしても適したサービスとなる可能性を秘めている。

電動キックボードをめぐる規制緩和の動き

- ◆ 電動キックボードは現在（2023年2月）では原付扱いとなっていて、2023年7月に道路交通法の改正案が適用され、新たに「特定小型原付」と区分される。これにより、電動キックボードは16歳以上であれば運転免許が不要になり、ヘルメット着用が努力義務となる。また、速度に応じて、車道に加え、自転車レーンや路側帯での運転も可能となる。
- ◆ なお、Rimoにおいては、レンタル時に、安全な利用に関するルールや留意点等を直接利用者に伝えることとしており、店舗を伴わないシェアリングサービスについてはこれが叶わないため、サービス実施を行っていない。



電動キックボードRimo
(株式会社ゴールドストーンブラザーズより提供)

コラム ②

トゥクトゥク／沖縄トゥクトゥク株式会社

沖縄トゥクトゥク株式会社が販売するトゥクトゥクの活用のされ方

- ◆ 沖縄トゥクトゥク株式会社は2016年に創業し、タイから輸入したトゥクトゥクを日本仕様の車両に一部をしたうえで、日本国内向けに販売を実施。沖縄県内ではホテル等の観光業や飲食店の顧客送迎やレンタカー事業者のレンタル商品としての活用が多い。
- ◆ 県内北部のリゾートホテルでは、ホテルの駐車場－フロント間の送迎や、ホテルから2km圏内のコンビニ、飲食店、バス停等の送迎といった、宿泊者向けの送迎サービス車両として使用されている。また、離島でのマリンを楽しむ旅行商品内での、港とビーチをつなぐ送迎車両としても使用されている。

トゥクトゥクの特徴

- ◆ トゥクトゥクは移動手段としてだけではなく、移動そのものを楽しむ乗り物としてのポテンシャルが大きい。同乗者の顔が見えやすい車両構造や、沖縄の海や空とトゥクトゥクの組み合わせの良さ等から、非日常間の演出に繋がっている。また、座席の表面はビニールシートであるため、水着のまま乗りやすいという利点から、沿岸部、離島、リゾートホテルでの活用が特に適していると言える。
- ◆ 車両構造上、乗り降りがしやすく、車両によっては、ベビーカーを置まずに乗車も可能となる。

トゥクトゥクの車両としての位置づけ

- ◆ トゥクトゥクは、車両区分上「側車付き自動二輪車」、つまり、バイクに側車を付随させたサイドカーとしての扱いとなっており、普通自動車免許での運転が可能となる。 ※自動二輪車免許では運転不可
- ◆ トゥクトゥクは白ナンバー車両であり、有償での運送ができないため、現在は、施設での無料車両としての使用となる。バスやタクシーを使うほどではないワンマイル移動のニーズを満たす移動手段として、例えば、トゥクトゥクをはじめとする、沖縄に合った、子連れ移動のニーズを満たすことができる白ナンバー車両を有償で運行する特区制度や実証実験を行うことは、観光客の利便性向上に寄与すると考えられる。



トゥクトゥク
(沖縄トゥクトゥク株式会社より提供)

コラム ③

AIオンデマンド交通「mobi」 / Community Mobility株式会社

mobiのサービスの概要

- ◆ WILLERが 2021年より運営を開始したAIオンデマンド交通「mobi」は、2022年4月よりCommunity Mobility株式会社(WILLER株式会社とKDDI株式会社が設立した合併会社)が提供しており、半径約2-3km程度のエリア内で、行きたい時に行きたい場所まで自由に移動することができる、スマートフォンアプリを用いた、相乗りによるオンデマンドサービスである。
- ◆ 通常、相乗りによるオンデマンド交通は、相乗りをすればするほど、目的地への到着時間がずれていき利便性が低下することが課題となるが、mobiは、エリア内に概ね200mごとに架空の乗降場所(バス停のようなイメージ)を設定していることや、相乗りの発生により到着予定時間が一定以上遅れる場合は、AIの自動計算によりマッチングしない仕組みとしていることにより、到着時間の大幅なずれを発生させないよう工夫している。

地域でmobiを導入することの便益

- ◆ mobiのサービス提供は、WILLERがノウハウやアプリサービスを提供し、地元事業者(バス、タクシー、ハイヤー)が運行を担うため、利用者の利便性向上に寄与するとともに、地域の交通事業者の収益多角化につながるビジネスモデルとなっている。
- ◆ 移動支援は「福祉」「交通」「観光」等、それぞれの分野においてそれぞれが対応されているが、mobiはあらゆる移動を集約し、効率的で一気に通貫した「地域政策」としての効果を発揮する可能性がある。

mobi導入の現状

- ◆ 2023年2月現在では、全国11都市にて展開。いずれも道路運送法第21条による「実証実験」による運行となっている。

 **mobi**
Community Mobility

『お迎え』から『目的地』まで
定額 乗り放題
相乗り で効率よく移動



Mobiのサービスイメージ
(Community Mobility株式会社より提供)

③参考：調査結果と提言の対応

調査結果

■「沖縄は車なしでは楽しめない」といったイメージが定着し、車を利用しない沖縄旅行の経験の共有（発信）も不足

- 旅行の計画時における、車を使用しない便利な県内移動情報が不足
- 特に子連れの車なし旅行について、旅行者の実体験に基づく情報が得られない
- 沖縄旅行は、車がないと周遊が楽しめないというイメージが定着
- 車なしの旅行でも、事前に計画を立てていけば、相応の満足感を得られる
- 沖縄のような、車で移動が主となる観光地であっても、「車以外の交通手段で旅行ができる」、あるいは「その地域に魅力が感じられれば」車の運転に抵抗がある人や免許を持っていない人にも旅行先として選ばれる

■機動的なラストワンマイル手段の不足により、行きたい場所に行けなかった旅行者も存在

- 徒歩20～30分程度の距離のスポットにおいて、機動的なラストワンマイル手段がないため、訪問を断念した
- 未就学児を含む家族連れは、他の同行者グループに比べ、旅行先での車を使わない移動に関して不便を感じる場面が多い
- ワンマイル交通サービスの導入は移動の総量を増加させる(今まで行けなかった場所に行ける)
- トクツクや電動キックボードは、移動そのものが楽しめる、まさに沖縄に合ったサービスとして打ち出すことが可能（雨天・荒天時は使用が難しい）
- 沖縄で利用したいラストワンマイルの移動手段としては、電動のレンタサイクルが最も多い
- 未就学児を含む家族連れは利用したいワンマイル交通として、他の同行者と比べ、特に「カーゴバイク」を選択

■旅行者は旅行先での移動において「安全」「安心」「快適」「定時制」を重視

- 旅行先の移動で重視することは、「安全」「安心」「快適」「定時制」
- 情報収集時では、「乗り場情報」「時刻表」「リアルタイム運行状況」といった公共交通の基本的な情報が見つけにくいことが課題
- タクシー配車アプリは運転手や到着時間等が可視化される安心感もあり若年層の利用が多い
- 配車アプリによるデータ活用や相乗りサービス等、新たな取組によって、利用者の利便性を高めるとともに、企業としても収益性を高め、若い世代の運輸業への就業にもつなげたい

■地域×交通事業者や交通事業者間のコラボに可能性

- 地域との連携や交通サービス同士の連携は地域としても事業者としてもポテンシャルがあり、観光客の利便性も向上させるため、今後の連携も視野に入れている
- AIオンデマンド交通は、観光地での導入も可能であるとともに、地元事業者が運行を担うため、利用者の利便性向上に加え、地元の交通事業者の安定収入に寄与

■現行制度の柔軟な運用により、旅行者や地元事業者へ便益

- AIオンデマンド交通のmobilityは、全国11都市で展開しているが(2023年2月現在)、道路運送法第21条における期間限定の「実証実験」による運行としている
- Uberのような運転手の顔が見えるライドシェアサービスは、旅行者に一定の魅力がある

提言骨子

課題への対応に適している
同行者・旅行スタイル・エリア

1. 「レンタカーを使わない沖縄旅行」の“実体験”情報も交えた発信強化による旅行者マインドの転換

- ✓ レンタカーを使わない沖縄旅行の、便利さや不便さも含めた、「実体験」の発信を推進
 - SNS投稿推進、リアルな旅の報告の発信 等

すべて すべて すべて

2. “沖縄にマッチした”環境に優しい”ラストワンマイル交通サービスの充実

- ✓ 機動力の高い移動サービスの充実による周遊促進
 - 電動レンタサイクル、電動キックボード 等
- ✓ 未就学児を含む家族連れへの対応
 - カーゴバイク 等
- ✓ 沖縄特有の天気（雨天の多さ、炎天）への対応
 - オンデマンド交通（mobility等）
- ✓ 沖縄ならではの、移動そのものの楽しみの提供
 - トクツク 等

ベア/友人 観光地巡り 地方部/離島

ひとり旅

子連れ家族 リゾートステイ 地方部/離島

子連れ家族 観光地巡り 市街地

リゾートステイ 地方部/離島

ベア/友人 リゾートステイ 地方部/離島

子連れ家族

3. 快適な移動を担保するインフラ整備

- ✓ 車以外の移動に優しい道路整備
 - バス専用レーン、自転車専用レーン
- ✓ 車なし移動の所要時間や料金イメージの提示
 - 主要スポット間の移動時間マップ、配車アプリ推進
- ✓ 交通情報の集約・連携（Googleマップ等）
 - バス位置情報の可視化、タクシーやレンタサイクル等あらゆる二次交通情報の一元化
- ✓ バス停の刷新
 - 屋根・ベンチの設置（炎天・雨天対応）、バス停DX（運行情報、ホテル・観光地案内）

すべて すべて すべて

4. 地域や事業者間連携による最適化

- ✓ 交通事業者間連携、地域×交通事業者連携
 - 地域×交通事業者連携商品、タクシー×電動キックボード商品、AIオンデマンド交通導入

5. 制度面における検討

- ✓ 利便性や柔軟性の高いオンデマンド交通の導入
 - オンデマンド交通の更なる展開
- ✓ タクシー等の少ない地域におけるライドシェアの実用に向けた検討
 - ライドシェアサービスの試験的な実施